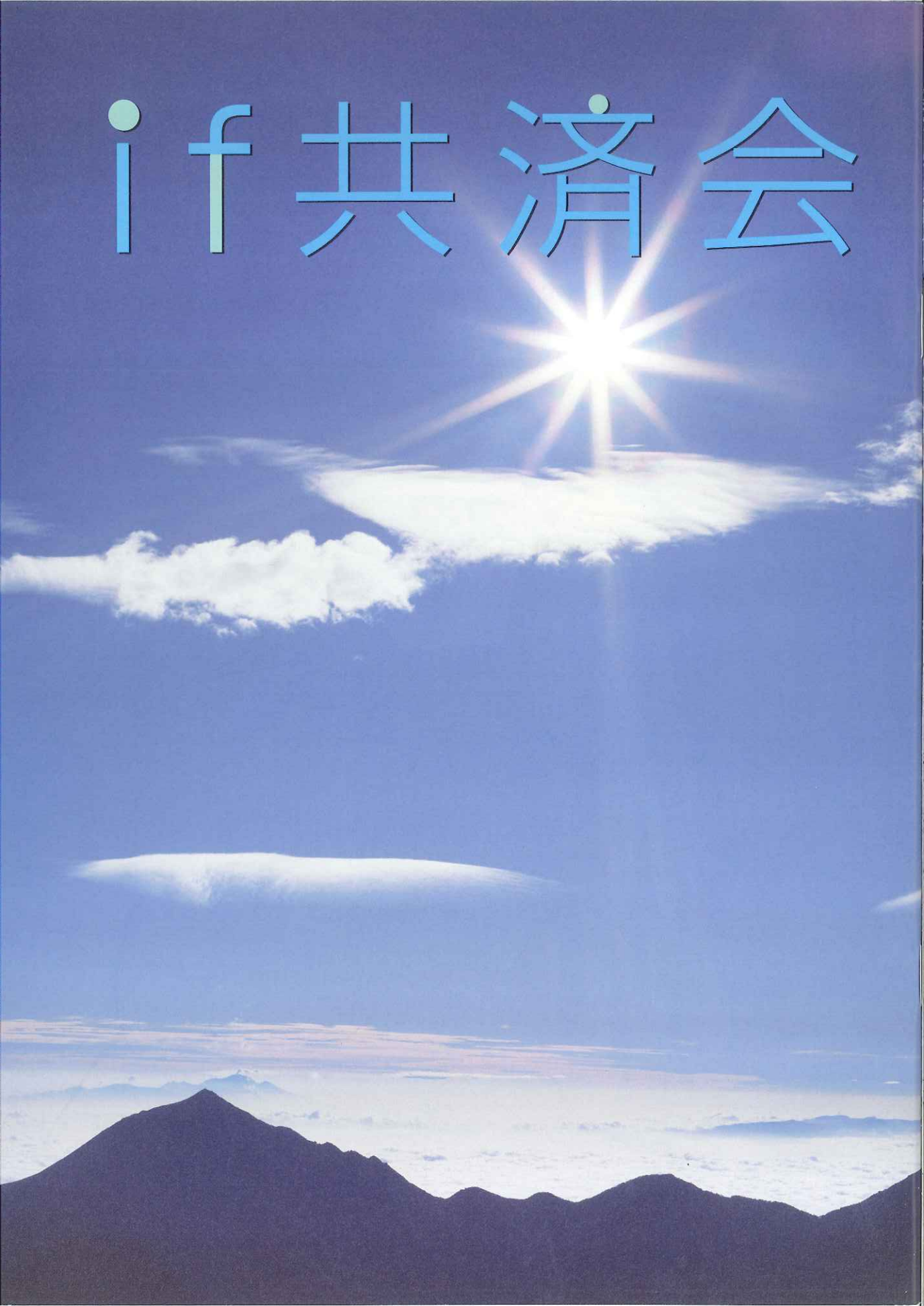


if 共濟會





齢を重ねると感じることはありません。
 肌が潤いをなくしたこと。
 脚や腰に痛みが襲うこと。
 そして身体が敏捷性を失っていること。
 夜の眠りが浅くなり、不安になることも。
 自分の記憶の不確かさを思い知らされること。
 齢を重ねることで見えてくることもあります。
 昔の若い日々の記憶はいつまでも褪せないこと。
 気分はなかなか衰えないこと。
 家族への愛情は日々深まること。
 花や木や山や川に愛しさを覚えること。
 人の声がこんなにも心に届くものであると思えること。
 古い写真を取り出して見ます。
 そこには私の、そして家族の過去があります。
 過去はけっして褪せることなく
 昨日のことのようによみがえってくるのです。
 最近の日々の記憶が薄れるのと反比例して
 過去が語りかけてくるのです。
 かつての時代の空気も運んでくれるのです。

C O N T E N T S

詩	1
法事 家族のメモリアル	2
1. 法事のもつ意味	3
2. 家族のメモリアル・ノート	6
3. 法事の迎え方	9
お盆—その迎え方	11
家族	14
お葬式Q&A	16
Q 1 臨終の後、まず連絡すべきところは？	17
Q 2 臨終からお通夜までの作法は？	18
Q 3 宗派・菩提寺がわからない場合は？	19
Q 4 喪主・葬儀委員長とは？	20
Q 5 基本的な葬儀の流れは？	21
Q 6 なぜ焼香するのか？ その作法は？	22
Q 7 生花・花環の出し方	23
Q 8 お布施とは何か？ その目安は？	24
Q 9 お香典・お香典返しとは？	25
Q 10 葬祭業者への支払いのおよその相場は？	26
Q 11 葬儀の後になすべきことは？	27
if共済会の会員特典	28
if共済会 保険プラン	30
全葬連加盟組合一覧	



法事

家族のメモリアル

家族と死別したとき

その悲しみのなかで、

故人にこう語りかけたことでしよう。

「私はあなたのことを忘れない」と。

法事とは

亡くなった故人が、

家族にとってかけがえのない存在であったことを、

心にもう一度

問いかけるためにあるのではないでしようか。

1. 法事のもつ意味……………3
2. 家族のメモリアル・ノート……………6
3. 法事の迎え方……………9

1 法事のもつ意味

法事というのは、家族の一員であった故人を記念するために行うものです。

時間が経つにつれ、世間の人は故人を忘れるかもしれません。しかし、家族はちがいます。故人に対する感情が悲しみや嘆きから懐かしさに変わろうとも、忘れることはありません。暦をめくり法事がやってくるごとに、故人を思い起こすのです。

古い昔、中国から日本に仏教が伝えられたときから法事はありました。それは四十九日、百か日、一周忌、三回忌です。

四十九日

四十九日とは、死後7日目ごとに7回営みます。7×7＝49なので四十九日まで7回営むことになります。

最初が初七日、次が二七日(14日目)、そして三七日(21日目)、四七日(28日目)、五七日(35日目)、六七日(42日目)、最後が七七日(49日目)となります。

この四十九日は遺族にとって社会から「故人を弔うこと」に没頭し、悲しむことが許された時間でした。

家族と死別する、家族の一員を喪うということは、とてもつらい出来事である。

百か日

す。そのことを社会もよく知っていました。そこで遺族は、四十九日の間は、世間の付き合いはしなくてもよいとされていたのです。死者を弔うことに専念してもよいとされたのです。

百か日とは、死後百日目のことです。四十九日までは7日ごとに行っていた法事も、四十九日の後は、その約倍の日を経た百か日に法事を営むことになります。四十九日までの激しい嘆きも少しずつ癒える頃なので「泣くのを終える日」とも言われます。



悲しみは人によって異なるものです。百か日がきたから元気になるというものではありません。百か日までは「泣いていてもいいんだよ」と社会的に公認された期間と理解するとよいでしょう。

一周忌

昔の慣習は遺族の悲しみにとっても寛容でした。さらに一周忌が用意されています。一周忌は1年目の命日のことです。遺族は故人の死後1年間は「喪中」とされました。

「喪中」とは「喪に服している期間」のことです。1年間は遺族は悲しんでいいんだよとされたのです。

「喪中」という言葉から「喪中ががき」を思い起こす人が多いことでしょう。家族を喪つて、まだ一周忌を迎えていない人は、喪中ががきを出す慣習があります。

「喪中につき、年賀のご挨拶をご遠慮申し上げます」

この文章は、「ただいま家族を喪い喪に服しておりますので、本来は年賀のご挨拶にうかがうべきところですが、差し控させていただきます」という

意味です。

この喪中ががきを受け取った人は、「あのお宅は家族と死別されてまだ1年も経過していないんだ。さぞかし気持ちの整理もつかずたいへんだらう。新年とはいえ、騒ぎに巻き込まずそつとしておいてあげよう」となるわけです。

三回忌

1年で喪に服することを終える人が多いですが、なかには悲しみを抱え続ける人もいます。特に子どもを失くした親の場合には嘆きが強いものがあります。



す。そして一周忌がくると、故人のことを思って悲しみがぶり返すこともあります。

命日とはかぎりません。故人の誕生日や家族旅行をした日などがくると強い悲しみがぶり返したりします。これは「記念日症候群」と言われるものです。

そこで2年目の命日まで、つまり三回忌までを喪中にするケースが想定されているのです。

法事の数え方

2年目の命日が三回忌だと言いました。通常の数え方でしたら満2年なのですが、亡くなった年を入れて計算しますから、一周忌は2年目に、2年目の命日は3年目に入るわけです。満の数え方から11するといのです。したがって七回忌は死後6年経過した命日のことです。

四十九日の数え方も同様です。初七日は亡くなった日を入れて7日目になります。4月1日に亡くなった人の初七日は4月7日です。地域によっては連夜(たいや)といって前日を大切にしますから初七日を4月7日の前日、4

月6日に営むこともあります。

もともと最近では初七日を別に営まず、葬儀の当日、葬儀や火葬の終了後に初七日法要を営む事例が一般化しています。それは葬儀が死後3日目あるいは4日目に行われることが多く、4月1日に亡くなった場合、4月4日前後の葬儀が一般的のため、本来の初七日である4月7日(あるいはその前日の6日)にまた集合するのが大変というので繰り上げて行われるようになったからです。

このような例でもわかるように、法事は当日よりも数日繰り上げて行うことがあります。

ここで世間には繰り上げはいいが繰り下げ、つまり当日より遅れて行うことはよくないと言われていることについて一言。

法事は、当日はあくまで目安なので数日遅れることはかまいません。故人を記念する、思い起こすことが重要なのです。皆が集まりやすいということになると休日が選ばれます。当日前後の都合のよい休日を選んで営んでかまいません。

休日はお寺にとっては法事が重なる心配もありますので、お寺には早めに

相談して日取りを決めましょう。

法事の案内は1カ月前を目途にし、出欠の返事をいただくようにしましょう。

七回忌以降は？

毎年の命日は大切にされますが、三回忌以降、特に重要だとされているのが七回忌、十三回忌、三十三回忌です。真宗では五十回忌も大切にされます。その間でも3や7がつく十七回忌、二十三回忌、二十七回忌に法事が営まれることがあります。

三回忌までは、故人に対しては悲しみの感情が強い時期です。しかし悲しみも次第に癒えてきます。6年目となる七回忌以降は「思い出」の感情が強くなります。

月の命日を大切にすると習慣もあります。月の命日とは、死亡した日が1月19日の場合、毎月の19日のことを言います。地域によっては、月の命日には檀那寺の僧侶がお経をあげるためにお宅を訪問してくれるところもあります。これを「月参り」と言います。なお、月の命日のことを「月忌」とも言います。



メモリアル・ノート

■故人名

■戒名(法名)

■誕生年月日

■死亡年月日

■死亡時年齢

■続柄

■埋葬場所(墓地等)

■故人の長所

■故人が好きだったこと、もの

■故人との思い出

■法事の実績、予定表

()内は自分のそのときの年齢

葬儀	年	月	日	(歳)
四十九日	年	月	日	(歳)
百か日	年	月	日	(歳)
一周忌	年	月	日	(歳)
三回忌	年	月	日	(歳)
七回忌	年	月	日	(歳)
十三回忌	年	月	日	(歳)
十七回忌	年	月	日	(歳)
二十三回忌	年	月	日	(歳)
二十七回忌	年	月	日	(歳)
三十三回忌	年	月	日	(歳)
五十回忌	年	月	日	(歳)



メモリアル・ノート

■故人名

■戒名(法名)

■誕生年月日

■死亡年月日

■死亡時年齢

■続柄

■埋葬場所(墓地等)

■故人の長所

■故人が好きだったこと、もの

■故人との思い出

■法事の実績、予定表

()内は自分のそのときの年齢

葬儀	年	月	日	(歳)
四十九日	年	月	日	(歳)
百か日	年	月	日	(歳)
一周忌	年	月	日	(歳)
三回忌	年	月	日	(歳)
七回忌	年	月	日	(歳)
十三回忌	年	月	日	(歳)
十七回忌	年	月	日	(歳)
二十三回忌	年	月	日	(歳)
二十七回忌	年	月	日	(歳)
三十三回忌	年	月	日	(歳)
五十回忌	年	月	日	(歳)

家族のメモリアル・ノート

配偶者、両親など故人となった家族を記念するノートをつくってみましょう。





3

法事の迎え方

その1 いい写真を選ぶ

まず最初は、亡くなった人らしい写真を選ぶことです。
選ぶうえで大切なのは、その人らしい、家族が「あーいい顔」と思えるような写真を選ぶことです。

語りかけるような表情、優しい表情、ほらかな表情、じつと見つめているような表情：いろいろな表情があるでしょう。

できれば家族みんなで相談しながら選びましょう。亡くなった方は、家族一人ひとりととの母（あるいは父）であったり、配偶者であったりするのですから。

中心になる一枚を選び、候補となった写真も額に入れておくといでしょう。

その2 部屋を整える

法事をする自宅の部屋を掃除して清

その4 服装を整える

葬儀の当日、参加する人は服装を整

その3 仏壇を整える

めます。はたきをかけ、雑巾で拭き、丁寧に隅々まで掃除機をかけてきれいになります。
お花屋さんに行つて、季節の花を買つてきて、花瓶に活けます。

仏壇を開け、きれいに掃除します。隅にほこりがたまりがちです。

一度仏具を下ろし、きれいにし、打敷を敷いた後、仏具を並べます。

一般に法事のお飾りは、中央に香炉、左右にろうそく、いちばん外側の左右に花立てを配します。全部で5つの道具を並べるので「五具足」と言います。

仏壇は部屋の正面になるように置きます。

その5 法要は全員で勤める

法要は全員で勤めましょう。食事の準備をしている人も手を休めて、着席し、みんなで勤めます。



メモリアル・ノート

■故人名

■戒名(法名)

■誕生年月日

■死亡年月日

■死亡時年齢

■続柄

■埋葬場所(墓地等)

■故人の長所

■故人が好きだったこと、もの

■故人との思い出

■法事の実績、予定表

()内は自分のそのときの年齢

葬儀	年	月	日	(歳)
四十九日	年	月	日	(歳)
百か日	年	月	日	(歳)
一周忌	年	月	日	(歳)
三回忌	年	月	日	(歳)
七回忌	年	月	日	(歳)
十三回忌	年	月	日	(歳)
十七回忌	年	月	日	(歳)
二十三回忌	年	月	日	(歳)
二十七回忌	年	月	日	(歳)
三十三回忌	年	月	日	(歳)
五十回忌	年	月	日	(歳)



最初、「これより故〇〇の〇回忌法要を行います。ご住職お願いいたします」と挨拶し、その後はご住職の指示で法要が進行します。

読経が行われ、参列者の焼香、僧侶による法話となります。

焼香は人数が少数な場合には回し焼香が行われます。自分の番に来たら両手で香炉を受け取り、ご本尊に向かって合掌し、焼香します。そして再び合掌し、隣の人に香炉を渡します。落ちて、静かな動作を心がけましょう。

その6 お斎

法要の後の会食のことを「お斎」と言います。

お斎はレストランやホテル等に席を移して行うこともあります。また最初の法要からホテルやレストランで行うこともあります。

「法事」は、とかく会食がメインと考えられがちですが、その前の法要である読経、焼香、法話がメインです。

キリスト教でもまず礼拝が行われます。

会食に先立って喪主が挨拶し、2人程度の方に挨拶をしていただき、僧侶に献杯をしていただき、会食となります。

食事がある程度進んだ段階で、何人かの方に挨拶をしていただきます。最後に喪主がお礼の挨拶をして閉めます。

その7 香典

参列者は香典を用意します。表書きは四十九日以降は仏教の場合は「御仏前」「御香料」「御香典」「御香資」、キリスト教の場合には「お花料」、神道の場合には「御玉串料」などとなります。

香典の金額はそれぞれでかまいませんが、会食の一人分くらいは目安としましょう。1万円から2万円というところでしょうか。

その8 引き物

法事を主宰する家族は事前に参列者のために引き物を用意して、帰りにお礼として渡します。

引き物は大きさにする必要はありません。故人の記念になる物がいいと思います。

予算としては、一人分が1〜5千円

の範囲で適当と思われる品物を選ぶといいでしょう。包みには「志」と書くのが一般的です。

その9 お布施

法事を勤めていただいた僧侶へのお礼は「御布施」と表書きをします。

金額は、法事の規模にもよりますが、一般的には3〜5万円です。但し、遠方から来ていただいたときには交通費、宿泊費実費相当分を別に「お車料」として包むことを忘れないようにしましょう。

キリスト教や神道の場合には「御礼」と表書きをします。

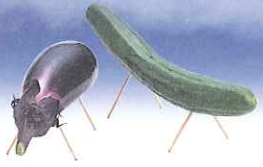
その10 席の作り方

法事は「法要」と「お斎」から成ります。

法要では遺族が最前列に座ります。しかしお斎(会食)では上席が僧侶や来賓の方、遺族は末席に座ります。親戚は遺族と来賓の間に座ります。

このように法要とお斎では座る順番が逆になる点に注意しましょう。

お盆—その迎え方



1 お盆とは

「お盆」は辞書で調べますと「盂蘭盆の略」とあります。お経に「仏説盂蘭盆経」があります。これがお盆の元と言われます。

釈尊の弟子である目連が、母親の死後の苦しみを救うためにどうすればよいか、と釈尊に助けを求めました。釈尊は、7月15日に修行する僧侶たちに供養をすれば、その功德で母親の苦しみがなくなるだろう、と説いたという話です。これが中国に入り、親孝行、死んだ親を供養することになったと言われます。

また「ウルバン」からきたという説もあります。

イランで収穫感謝祭と先祖を祀る祭りである「ウルバン」が中国に入って「盂蘭盆」という漢字にあてはめられたというのです。

また、本来は盂蘭盆とは無

関係に行われていた施餓鬼会が、いつの頃からか盂蘭盆会と混同されて、7月の盂蘭盆会のとくに合わせて行われるようになりました。

施餓鬼会とは、供養してもらえない霊である餓鬼をも救わずにおられない仏の慈悲を示す行事です。

さらに日本では死者である祖先が年に2度(正月と盆帰ってきて生者と交歓するという「魂(霊)祭り」の習俗がありました。

これらが習合して現在の「お盆」という習俗ができたと思われま

死者である祖先の霊(精霊)が帰ってくるのを迎え、収穫した野菜等の食物を感謝して供え、盆踊りも共にする等して交歓し、そして送り出す行事です。祖先に対してだけでなく、供養してもらうことのない餓鬼にも食物を供えます。

新しい死者に対しては「新



盆「初盆」と言って、特に丁寧に供養します。

かつては旧暦の7月を盆月と言ひ、15日の満月の日(8月下旬〜9月初旬)を中心に執り行われていました。

現在では、東京中心に新暦の7月に行う地域があります。が、多くは月遅れの8月15日前後に行われています。

2 お盆のスケジュール

お盆はきわめて人々の生活慣習になじんだ行事ですから地方色が豊かです。地域によ

つてさまざまです。

ここでは一般化して紹介します。

1日を「地獄の釜の蓋が開く日」として盆の開始とする地域は多く見られ、この日には、新しく死者を出した家では高灯籠を立てることもしました。

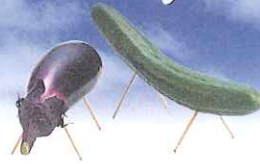
7日には墓掃除をします。12日には精霊棚を作り準備をします。

13日(あるいは12日)は「迎え盆」と言ひ、お墓参りをした夕方盆提灯に火を灯し、精霊(祖先の霊)をお迎えします。家の外では迎え火を焚きます。

15日(あるいは16日)の夕方には送り火を焚いて精霊を送ります。「灯籠流し」「精霊流し」と言ひ、舟形を作り、供物類を乗せ、盆灯籠を灯して川や海に流すところもあります。

19日や20日に送り盆をするところ、31日に送り盆をする

お盆—その迎え方



ところもあります。

3 精霊棚

現在は仏壇の前に小机を置いてお供えすることが多くなりましたが、かつては仏壇の前あるいは床の間に精霊棚（盆棚）を作り、家の外に施餓鬼棚を別に作ったこともありました。

精霊棚は、台を作り、その上にスノコ（竹や葦で編んだむしろ）またはマコモ（イネ科の大型多年草で、葉はむしろに用いられる）を敷きます。四方に青竹を立て、上は縄を張り巡らします。竹と縄は結界を表すと言います。

上の縄には、ソーメン、昆布、ヒョウタン、ホオズキ等を吊るしたりします。

台の上には位牌を置き、その前に霊供膳、季節の食べ物をお供えします。

お盆ならではの供え物にはナスやウリを細かく刻んで水

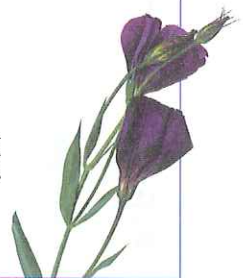
鉢に入れ、これに洗米を混ぜた「水の実」「水の子」があります。このとき鉢として蓮や芋の葉に水を入れたのを用いることもあります。

蓮の葉に水を数滴たらしたあか湯水も用意します。

13日には迎え団子、14日には芋茎和え、ナスとフクベのゴマ和え、15日には蓮の葉に強飯を包んだ蓮飯に送り団子をお供えしているところもあります。

また、ナスで牛を、キュウリで馬をかたどり供えることもよく見られます。

精霊を馬で（早く）迎えに行き、牛で（ゆっくり）送るなどと言われています。地方によっては牛でゆっくり迎え、馬で急いで送るというように、まったく逆になっているところもあるようです。



東北などでは牛馬を表わらで作ることもあります。精霊棚の横、玄関などには盆提灯を飾ります。新盆では親類などが白提灯を贈るものとされています。

4 迎え火・送り火

精霊をお迎えするとき、あるいは送り出すとき、夕方、家の玄関先で火を焚きます。

これを「迎え火」「送り火」と言います。玄関先で行うので「門火」とも言います。

缶、ほうろく（素焼きの土鍋）、陶器の盆の上でオガラ（麻の皮をはいだ茎を焚きます。あるいはローソクに火を灯します。

有名な京都の大文字焼きは送り火です。

5 棚経

お盆の期間中、お寺の僧侶は檀家の家を回り、盆棚の前

でお経をよんでくれます。棚の前でよむのでこれを「棚経」と言います。

お寺と連絡をつけておいて、何日の何時頃か予定しておき、このときは家族で揃っておきましょう。

僧侶は檀家をこの期間中に回らなくてはいけないため忙しいので、お布施を包むほかはお茶を差し上げる程度でよいでしょう。

また、新盆にあたるときは親類も集まり、一緒に供養をし、食事をともにします。住職にもお願いし、日時を定めておきましょう。

住職が忙しく、食事をともにできないような場合には「お膳料」を代わりに包みます。

6 墓参

7日にお墓掃除を行うところもあります。12日まではお墓を掃除しておきましょう。ま

た、お盆の期間には帰省する家族もいるでしょう。一緒にお墓参りをし、亡くなった家族とゆつくりと心の対話をする機会としたいものです。

7 施餓鬼会

お盆に合わせてお寺では施餓鬼会を行うことがあります。

施餓鬼会は、供養してもらえない霊である餓鬼をも救わずにおられない仏の慈悲を示す行事ですが、その主旨から言えば、今世界で、テロで、戦争で、民族紛争で、あるいは飢えでいのちを落としている人たちがたくさんいます。こうしたいのちの尊さを感じて施餓鬼会に参加するのは意味のあることでしょう。

盂蘭盆と施餓鬼会が一緒になって営まれるということは、自分たちと暮らしをともにした家族のいのちについて思うと同時に、多くの大切な

いのちが失われていることを思う大切な機会であると思います。

8 新盆（初盆）

初めてのお盆を迎える死者のために行われるのは「新盆」「初盆」と言い、特に大切に営まれます。

1年の間に亡くなった家族（新仏）という、四十九日はまだ過ぎていないときは含めないこともある）を特に供養するために行われます。

1日には高燈籠を門口に掲げたりするところもあります。

親戚や関係者は白い提灯を贈るとされています。これに家紋を入れることもあります。しかし近年では、白提灯は新盆のときしか用いることができない、と模様入りのを贈ることもあるようです。

新盆では関係者が揃って、檀那寺の住職の棚経に耳を傾

け、終わった後に新仏を迎えて会食をとものにします。

9 生盆（生見玉）

お盆は死んだ祖先のためにあるわけではありません。健在にしている父母、祖父母を元気づけるためにもあります。

これを「生盆（いきぼん）」「生見玉（いきみたま）」と言います。

父母や祖父母を元気づけるためにサバを贈る習慣もあります。

10 盆踊り

夏の風物詩である盆踊りは、訪れてきた精霊（祖先の霊）を慰めるために行われるものです。

ですから今でも、新仏の位牌を背中に背負って踊ったりすることがあります。

また、手ぬぐいを頭に載せ

たり、笠をかぶって顔を隠して踊ったりするのは、踊り手が新仏のつもりで踊ったと言われます。

つまり盆踊りは、生者も死者もなく一緒に楽しむ空間を作り出してくれる行事であったのです。

お盆は私たちのいのちが単独であるのではなく、父母、祖父母と連綿と引き継がれていて、それが私たちのいのちに結晶してあることを体感させてくれる行事です。死者も私たちの中に生きていることを思い起こさせてくれる大切な行事だと言えましょう。



家族



「雨の日も、風の強く吹く日も、雪の日も、毎日、毎日、家から家へと郵便を配達していたものだ」

祖父の自慢は、郵便配達の仕事をしていた若い頃、無遅刻、無欠勤だったことだった。

祖父は晩年は盆栽作りが趣味だった。

5年前に亡くなり、いまは仏壇の中にいるが、そこには晩年の写真と一緒に、若かった時のりりしい写真が置かれている。祖母の田舎は北海道だ。

高校卒業と同時に上京し、会社勤めをしていた時、会社に郵便配達してきた祖父と出会ったらしい。

「それはそれは大恋愛だったそうよ」

とは母の話である。

祖母は耳は遠くなっていたが、元気だ。猫のミーが祖母のよき遊び相手である。

父の出身は愛媛県である。

父は高校卒業後、東京の大学に進学。そこでクラスメートだったのが母である。

母はいつも言う。

「父さんは、あまりに貧乏だったので、かわいそうだったから家に食事に呼んだのよ。そうしたら親が気に入って、いつ

いちやっただの。野良猫よ」

父は将棋が強く、やはり将棋好きの祖父と昔はよく庭先で将棋を指していた。

父は寡黙である。母のほうが圧倒的に口数が多い。仕事から家に帰ると父は、一日中の起こった出来事を話す母の言葉に黙って耳を傾けている。

土曜日の午後は父と母がデートをする。若い時から続いている習慣だ。僕たちが幼い時は、その時間は祖母が面倒を見てくれた。

僕には妹がいる。4歳下である。

その妹が昨年結婚した。

それはそれは我が家ではたいへんな出来事であった。

母ははしゃぎまくり、父は不機嫌だった。

僕はというと、初恋の女性を奪われたようなショックを味わった。

今年の正月、家に妹夫婦も来た。祖母、両親、妹夫婦、それに僕、全部で6人。

妹と母は口を揃えて言う。

「お兄ちゃん、そろそろいい人見つけて結婚しなくちゃ駄目よ」



Q 1

臨終の後、 まず連絡すべきところは？

「臨終」とは「今にも死のうとして
いる時」のこと、広い意味では
その人が生涯を終えようとしている
終末期を指します。

家族等の近親者以外に本人が最後
に是非会っておきたい親しい友人な
どがいたら、連絡し、会っていただ
くといでしょう。事故や突然死等の
場合を除き、現代の死は急にやって
くるのではなく、ゆつくりとやってき
ます。これから亡くなろうとし、生涯を
閉じようとするときは不安や孤独感
を抱くケースも少なくありません。
心が安らぐ環境を作り、本人が死期
を悟っているなら、「一緒に暮らせて
幸せだった」「大切な存在でした」あ

りがとう」と感謝や愛情を表明し、心
の通った時をもちたいものです。

危篤になったら近親者が集まり、
見守ります。聴覚は最後まで生きて
いると言われるので、手を握り、声
をかけてあげましょう。
安らかにその人が生涯を終えるこ
とができるように、愛情をもって接
することが大切なことです。

親しくして信託している宗教
者（住職や牧師）がいたら、一緒に看
取ってもらいたいでしょう。

今、自宅で亡くなる方は約13%ほ
どです。病院等で死亡するケースが
多いので、最後に会ってほしい人（こ
れはそれぞれ違います）、危篤になっ

た時に連絡する人には病院の所在
地、電話番号、病棟名も併わせて連
絡しましょう。

家族で連絡を忘れがちなのは本人
のきょうだいです。息子や娘が看病
していると、叔父、叔母は「少し離れ
た関係」と思いがちですが、本人に
とっては欠かせない家族です。

自宅等で脳溢血を起こしたりして
突然倒れることもあります。このと
きは誰に連絡するかよりも先に救急
車を呼ぶことが大切です。

高齢者が外出先で倒れることがあ
ります。家族の連絡先を書いたカー
ドを常に持参させるようにすると安
心です。



お葬式

Q & A

お葬式についての疑問

いろいろありますね。

それをここでドーンとまとめて解決します。

- Q 1. 臨終の後、まず連絡すべきところは？
- Q 2. 臨終からお通夜までの作法は？
- Q 3. 宗派・菩提寺がわからない場合は？
- Q 4. 喪主・葬儀委員長とは？
- Q 5. 基本的な葬儀の流れは？
- Q 6. なぜ焼香するのか？ その作法は？
- Q 7. 生花・花環の出し方
- Q 8. お布施とは何か？ その目安は？
- Q 9. お香典・お香典返しとは？
- Q10. 葬祭業者への支払いのおよその相場は？
- Q11. 葬儀の後になすべきことは？



お葬式Q&A

Q2

臨終からお通夜までの
作法は？



医師が死亡を判定し「ご臨終です」と死を宣告した後、まずなすことは、看取った家族や親友が一人ひとり死者の手を握り「ありがとう、また会いましょう」と声をかけてお別れすることです。看取る人が自分もいずれ死ぬ身であり、先に逝った人を見送るという姿勢が大切です。

死亡直後の儀礼には「末期の水(死水)」があります。湯呑茶碗に水を入れ、綿棒(かつては檜の葉)を水に浸して死者の唇を潤します。看取った人が順に行い、お別れします。

看護師が清拭などして死後の処置をしてくれますが、衣服の着替えや化粧等は遺族も手伝うといいでしょう。新しい浴衣に着替えさせますが、好みの服等にドレスアップしてあげたいときはこの段階でします。

いったん霊安室に安置し、葬儀社に電話して自宅への移送を依頼します。(自宅に安置場所がないときは葬儀社が預かってくれます。)

寝台車で自宅に遺体を移送

しますが、事前に安置場所を決め布団を敷いておきます。布団は薄いものにし、夏は部屋に冷房を入れておきましょう。冷やすくらいがちょうどいいです。掛け布団も薄いものにします。

遺体の頭は北向きまたは西向きにします。釈尊の涅槃の故事にならったものです。部屋の構造上無理なときは、向かって右に頭を。

葬儀社が小机に白布を被せ、香炉、燭台、花立ての三具足を用意し、枕飾りを整えてくれます。

檀那寺の住職にできるだけ早く来ていただいて枕経をあげていただきます。遺族は普段着のままかまいませんから遺体のそばに集まり、一緒に弔います。

腐敗が進行するので納棺は早目に行います。葬儀社の手で遺体処置後、仏衣を着せ、遺族の手で納棺しましょう。

通夜までは遺族ができるだけ遺体のそばにいて線香の火を絶やさず仕えます。



Q3

宗派・菩提寺が
わからない場合は？



葬儀の導師は本人の檀那寺(本人が檀家となつてゐる寺)の住職にお願いするのが筋です。もし、檀那寺が遠方で住職が来られないときには、檀那寺の住職に紹介してもらいましょう。

本人が檀家になつてゐる寺がないときは、郷里に住む親戚に寺を聞いて、宗派を確認するとよいでしょう。

それでもわからないときには仏壇を見ます。仏壇のご本尊や位牌の戒名を見れば宗派が推定できることがあります。葬儀社と一緒に見てもらうといいでしょう。

位牌で宗派の判別方法の一部を紹介しておきましょう。宗派により戒名(法名)に宗派の特徴となる文字が入っています。

- ・浄土真宗 釈
- ・浄土宗 誉
- ・西山浄土宗 空
- ・日蓮宗 日、妙、法
- ・時宗 阿

宗派がわかり、決まった檀那寺がないときは、葬儀社に頼めば、適当な僧侶を紹介してもらえます。後々の法事でもお世話になるので、小さくてもお寺をもっている僧侶にお願いしましょう。

本来、葬儀のときに慌てて僧侶を探すというのは感心できません。葬儀や法事という大切なことを託すのですから、実際に寺を見て、住職に会つてお話をうかがい、このお寺だったらいろいろ相談にものってくれるし、安心して託すことができる、と納得できるお寺を事前に探しておきましょう。大きい・小さいではなく、小さくとも清潔に保たれているお寺はいいお寺です。お寺という葬儀・法事・お墓の関係だけと思つてゐる方がいますが、間違ひです。むしろ生前に、生き方を学び、安らぎを得、人生のよき相談相手となつてくれるところと考えるといいでしょう。

Q5

基本的な葬儀の流れは？

まず死後の大きな流れを紹介しておきましょう。

1. 臨終直後

- ① 末期の水
- ② 遺体の搬送・安置
- ③ 枕経

2. 納棺

3. 通夜

4. 葬儀

- ① 葬儀式
- ② 告別式
- ③ お別れの儀・出棺

5. 火葬(地方により葬儀の前に行われる)

6. 法要

- ① 還骨法要
- ② 初七日法要
- ③ 会食

7. 四十九日

8. 百か日

9. 一周忌

10. 三回忌

4の葬儀当日の流れにしぼって説明すると、遺族・参列者が着席し、導師を務める僧侶が入場すると葬儀式が開始します。

式次第では「読経」となっていますが、導師により宗派の葬式作法(授戒・引導等)が行われ、導師が焼香し、葬儀式が終了します。

その後、告別式の部分に進み、弔辞や弔電の紹介等が行われ、遺族から順に読経が行われるなか、焼香を行います。

火葬がまだのときは、遺族や親しい人々の手で棺が開けられ、遺体と最後のお別れを行います。出棺の用意が整ったら、会葬者に対して遺族代表が挨拶し、会葬者が見送るなか、火葬場に向けて出棺します。

火葬の後は拾骨(骨上げ)をし、還骨法要・初七日の繰り上げ法要を行い、会食(お斎)を終えて一日が終了します。



お葬式Q&A

Q4

喪主・葬儀委員長とは？

「喪主」「施主」という言い方があります。通常は遺族を代表する同じ人を指しています。

「喪主」は祭祀の中心となる人のことで、昔は父親が亡くなったときには、跡継ぎとなる男子がなりました。

戦前ですと、その家に最初の男子が生まれたときには「位牌持ちができた」と言って喜んだという話があります。葬儀では喪主が位牌を持ち、喪主であることを会葬者に示すのでこういう言い方がされたのです。

「喪主」にはこのように、家の継ぎ、家の祭祀の主宰者という意味がありました。

戦後になり家(イエ)制度がなくなりました。民法によれば葬儀の喪主や墓・仏壇の守り手を祭祀主宰者と言い、これは本人が指定するか、さもなければ慣習によるか、それでも決しないときは家庭裁判所が決するとなりました。

戦後は配偶者が喪主になるケースが多くなり、子になる場合でも男子がなるとは限らなくなっています。家族でよく相談して決めましょう。

「施主」は「布施する主」からきた言葉で、葬儀の費用や運営に責任をもつ人のことです。

社葬として行うときは、遺族

代表が喪主で、会社代表が施主になります。

葬儀委員長は、通常の個人葬の場合ですと、北海道を除いてはあまり立てることがなくなりました。葬儀のお世話をして運営責任を負う人という意味です。

社葬や団体葬の場合には、会社や団体を代表する人、つまり施主の役割をする人が葬儀委員長を務めます。社長が亡くなったときには、後継者となる専務、あるいは会社の後見人的立場にある親会社の社長、商工会の役職者等に依頼することもあります。

また葬儀実行委員長は、葬儀の実際の運営を管理する人が務め、社葬では総務部長等が務めます。

お葬式 Q & A



Q7

生花・花環の出し方



仏前にお花を供えることを寺院では供華(くげ)と言いますが、葬儀のときにお花を供えるときは一般に供花(きょうか)とよび、区別します。

故人に対し、弔意を表すためにお供えるもので、一般にはお花を供えます。食物等の供物は親戚や故人と特に親しい人がすることが多いようです。

供花には、生花、造花の花環しきみ、檜しきみがあります。檜は中部、関西地方が主で花環の代わりに供えられます。まだ地方では花環が並びますが、全国的に生花が多くなっています。

供花を贈るときには、取り扱っている葬儀社、生花店を聞いて、電話をして値段を確認したうえでファックスで注文します。

ファックスを用いるのは名前を間違わないためと、後で請求書をもらうための住所を書いておくためです。

表示する場合の名前「(株)〇〇 会長〇〇



〇〇」、そして請求書の送り先をはっきり書きます。

供花については、かつては対(2つ)単位が多かったですが、今は1基単位で贈ることも多くなりました。

遺族や会社の意向で供花の一つひとつに贈り主の名前をつけるのが一般的ですが、並べる順位に差をつけたくない、いちいちには名前を表示しないで、芳名板ほうめいばんを用意し、贈り主名をアイウエオ順で表示する方式も多くなってきました。

また贈られた供花で大きな生花祭壇を作る例も見られます。

祭壇の両横に供花を並べるとき、並べ順にはさまざまな考え方がありますが、一般的には次の方式です。

下段から上に向かい、同じ列は中央から端に向かい、贈られた花を並べます。遺族の花は喪主が最上段両端で遺族・親戚の順で端から中央、上から下へ並べます。

Q6

なぜ焼香するのか？ その作法は？



故

人との告別に際して、仏教では一般に焼香をもって行います。

焼香について藤井正雄氏(大正大学名誉教授)は「釈尊の在世のころから続けられてきた儀式であると伝えられ、仏の使いとも、仏の食事ともいわれ、また、焼香の香りは、供える人の身と心を清浄にするとともに、すみずみまで行き渡るものであるところから、すべての人々に差別なく行き渡る仏の慈悲をたたえるものともいわれます」と書いています。

敬虔な心を捧げ、弔う行為として焼香を行い、死者に別れを告げると考えるといわれています。葬儀のときは抹香が用意されていますが、中には自分で香を持参し、焼香する人もいます。

焼香の作法は次のように行います。

1. 仏前に進み出ます。
2. 焼香台の2〜3歩手前で本尊と位牌・遺

影を仰いで一礼します。

3. 焼香台の前に進みます。

4. 右手で香をつまみ、左手を添えるようにして、香を額ひたい近くまでいただきます。(但し、真宗では額にいただくことはしません。)

5. ゆっくりと、香を1回(または2回、3回)香炉の火に薫じます。

6. 合掌礼ごうしやうらい拝します。

7. 2〜3歩下がって遺族席に一礼し、退出します。

香こうこう盒に蓋がしてあるときは右手で蓋を取り、焼香の後、蓋をします。

回し焼香という方式もあります。

お盆に載せた香炉を順番に回していく方式です。隣の人からお盆を両手で受け取り、自分の前に置き、一礼、焼香、合掌礼ごうしやうらい拝し、両手で次の人に回します。狭いときは膝の上にお盆を載せたまま焼香しなくてはならないときもあります。

お葬式 Q & A

Q9

お香典・お香典返しとは？

「香典」はかつては「香奠」と書きました。しかし戦後に当用漢字が制定されたとき「奠」という漢字が外されたので「香典」と書くようになったのです。

元の意味は「香を供える」という意味でした。本来は、亡くなった方へ哀悼の意を表し、お香を供える表現としてありました。

お葬式を出すという行為は死者を弔う行為です。お香を供えるということはお葬式を出す行為への参加を意味し、したがって葬式費用の一部を分担するということになったと思われます。

武家社会では香典としてお金を包む習慣は古くからあったようですが、一般庶民の場合、お金ではなくお米や野菜を持ち寄っていたようです。昭和に入っても、米や野菜が香典として使用された地域がありました。

昔の葬儀は地域共同体が中心に執り行い、葬儀社に外注することはありませんでした。そのため費用は、葬儀を手伝ってくれた人、近隣の人への供養としての飲食の振る舞いに多くは用いられたのです。その食材を持ち寄ることが香典だったのです。

香典の平均金額は7千円です。といっても7千円包んでくる人はいなく、5千円または1万円です。近隣の人々の香典の平均額は3千円と一般よりも低いのは、昔近隣の人々は葬儀という炊き出しや葬具作り等で労力奉仕をしていたからです。労力奉仕自体が香典だったと言っていいでしょう。

香典返しの風習は今でも全国的に同じで

はありません。

地方によっては一律千円程度のハンカチ等を当日渡すことをもって「香典返し」としています。

一律千円程度のハンカチ等を渡すのは一般に会葬礼品、あるいは粗供養^{そくよう}と言い、香典へのお礼ではなく会葬してくれたことへのお礼となっているのが一般的です。

その場合の香典返しは別に行います。それには2通りあります。

1つは明治時代に東京等で始まった風習で、四十九日の忌明け^{きあけ}を期してお礼をするものです。

品物でお返しをするのですが、金額的にはいただいた香典の2分の1を目安にするのが半返し、あるいは2分返しと言います。3分の1の金額を目安にするのが3分返しと言います。

戦後、埼玉・千葉・神奈川辺りから始まり、今全国に流行しつつあるのが「当日返し(その場返し)」です。葬儀の当日に品物でお返しをします。

後から香典帳の整理をしなくてもいい、煩瑣^{はんさ}な作業が葬儀当日に終わってしまっただけでよい、お返し忘れがないと人気になっています。

金額的には2千円～5千円程度の品物を一律返すという方式です。もっとも3万円とか5万円を包んできた人へは、四十九日(三十五日)に「忌明けの御礼」として、また別にお礼をすることが多いようです。

Q8

お布施とは何か？ その目安は？



僧侶へのお礼の表書きに「お経料」「お戒名料」などと書かれることがあります。僧侶に葬儀をお勤めいただくことの代金、戒名(法名)を授かることの代金があるわけではありません。表書きには「御布施」と書きます。僧侶に仏事をお勤めいただき、精神的な施しを受けたことへの感謝を表し、施すことであるからです。

中には「法礼^{ほうれい}」と表書きをすることがありますが、仏法を説き、精神的な施しを受けたことへの感謝であるからです。

感謝の仕方はお通夜と葬儀でいくらか決まっているわけではありません。お金に困窮している人であれば10万円は大金です。しかし億という財産を持っている人にとっては10万円は端金^{はしかな}です。

感謝したことにならないお金でしょう。商品を買うことと違い、精神的な施しへの感謝ですからお布施の金額が人によって違うのは当たり前のことです。同じ葬儀をしていた場合でも、人によって10万円～20万円と差が出ておかしくないのです。生活水準から言えば、精一杯の10万円のほうが大金持ちの20万円よりも価値がある場合もあるのです。

こういう話をすると「参考までに相場は？」という質問が必ず出ます。そこでデータとして例をあげると20～70万円です。給料生活者であるならば、月給の3分の1～2分の1程度が目安となるでしょう。でも、これはあくまで目安です。それぞれの生活水準に合わせて精一杯のお礼をする、と考えるのが正解であろうと思います。

葬儀後に遺族がなすべきことは結構あります。家族と死別して精神的に打撃を受けているのに加えてですから大変です。

喪主が自分で全てを行おうと思わずに家族で手分けして行うようにしましょう。

1. お礼

僧侶へのお礼は、翌日にでもお寺にうかがって行います。その機会にいろいろと相談にのってもらいたいでしょう。

お手伝いをしてくださった方には、代表者の方を訪ね、「皆さんでお菓子でも」とお礼をするのがいいでしょう。

供花・供物・弔電をいただいた方へはとりあえず葉書でお礼をし、弔辞等で特にお世話になった方へはまず電話でお礼をします。

2. 香典返し

四十九日の忌明を待って行う場合は、それまでに香典帳を整理します。今では葬儀社にこの作業を委託できる場合もあります。

3. 故人の持ち物の整理

すぐ整理しなくてはならないのは財産価値のあるものです。預金通帳、不動産の登記簿、株等の証券。それだけではなく。財産価値のある絵画、書、陶器、宝石などの貴金属、自動車もあります。形見分けで四散してしまわないうちに整理しておきます。相続財産の確定のために大切な作業です。

その他故人の証明書、カード等は早めに整理して、返却・解約しておきましょう。

その他のものは慌てる必要がありません。落ち着いてからゆっくり整理しましょう。

4. 手続き

故人が世帯主であったときは14日以内に新しい世帯主を届けます。

電気・ガス・水道の公共料金の支払い名義人の変更は相手先に電話して行います。

賃貸住宅、借地権、借家権は名義の変更だけでなく、契約のし直しは不要です。

注意すべきは銀行口座の自動引き落としです。公共料金や賃料等が故人名義の銀行口座からの自動引き落としになっていたときは、口座振替の解約と

Q 11

葬儀の後になすべきことは？

新規申込が必要となります。

5. 生命保険

故人が生命保険の被保険者になっていた場合には保険会社に保険金の支払い請求を行います。但し、見なし相続財産になる場合には、遺産相続の分割決定後に行います。

6. 健康保険の葬祭費・埋葬料

国民健康保険の加入者が死亡した場合には、その葬儀を行った人へ葬祭費が支給されます。申請期限は2年。

被用者健康保険の加入者本人が死亡した場合には被保険者埋葬料が、加入者の家族が死亡したときは家族埋葬料が支給されます。申請期限は2年。

7. 所得税の確定申告

故人が自営業を営むなどして確定申告が必要な場合には、その年の1月から死亡日までの確定申告を死後4カ月以内に行います。前年分を済ませてなかったときも死後4カ月以内に行います。

8. 遺産相続

遺産相続が確定しないと本人名義の預金等は凍結されます。葬儀費用等限定した費用については一定の手続きをすれば認められます。

遺産の分割は、まず本人の遺言があればそれに従い、遺言がなければ相続人が協議して決定します。協議が不調のときは家庭裁判所で分割してもらいます。

相続人となる資格は、配偶者は別格で常に資格があり、子がいれば配偶者と子、子がいないときは配偶者と親、親もいないときは配偶者ときょうだいになります。

相続財産を確定し、相続税の申告・納付を10カ月以内に行いますが、さまざまな控除があり、実際に相続税を納付するケースは全体の5%程度です。

こうした作業は税理士等専門家に依頼して行いましょう。

お葬式 Q & A



Q 10

葬祭業者への支払いのおよその相場は？



葬

祭業者への支払いにも相場があつてないようなものです。

まず支払いがどこまで含まれているかによって異なります。昔はお花は生花店、料理は仕出屋さん、遺影写真は写真屋さん、そして祭壇等の葬具は葬儀社へ、と分けて発注されていました。ところが今では料理から何まで葬祭業者が一手に引き受けるケースが多くなっているため比較が難しいのです。

A 地方では葬儀社への支払いが50万円であるのに、B 地方では百万円であったとき、B 地方の葬儀社は2倍も高いとはいちがいには言えないのです。

というのはB 地方の葬儀社への支払いは料理の料金も含んでおり、A 地方の葬儀社では含んでおらず別に仕出屋さんに70万円支払っ

たとすれば、遺族の負担額の総額はA 地方のほうがB 地方よりも20万円高いということになるからです。

葬祭業者にいくらか支払うかではなく、総額を目安にして考えるといいでしょう。

総額を2百万円とすると、葬儀にかかる費用80万円、飲食費50万円、香典返し費用30万円、寺院費用40万円が一つの目安でしょう。

葬儀費用80万円のうち基本料金とも言えるべき祭壇費用は40万円程度です。

ですから寺院費用を除く一切を葬祭業者が扱った場合、その支払いは160万円になります。広告で「祭壇料40万円」とあっても中身を確認しないとけません。もともと遺族側にも平均百万円の香典収入があります。



if共済会の会員特典を 活用していますか？

——上手に会員特典を使いこなそう——

if共済会の会員には大きく4つの特典があります。
上手に会員特典を使いこなしてください。利用すれば利用するだけ役に立つ特典です。

1 登録した2親等までが弔慰金サービスを利用できる

会員ご本人か、登録済の2親等以内の方が亡くなった場合に、全国どこでも加盟店に葬儀を発注したときには基本葬儀料の10%を弔慰金として給付を受けることができます。

サービスの基本

CHECK 1

2親等以内の親族の葬儀で利用できます。

会員ご本人・配偶者はもちろん、同居の有無に関係なく、ご本人と配偶者にとつての両親、祖父母、兄弟姉妹、子供、孫の方の葬儀において利用できます。

CHECK 2

if共済会の加盟店は全国にありますから、もしものときには、その地の加盟店に申し込んだ場合には弔慰金を受け取ることができます。会員証を提示するか、会員番号を示してください。

他の地域で2親等以内の親族の方が亡くなった場合、入会取扱店にご相談いただければ、その地の優良加盟店をご紹介します。

2 葬儀や死後の手続き等さまざまな不安や疑問にお答えする相談サービスをいつでも利用できる

葬儀に関する不安や心配事にとどまらず、死後の手続きや処理について不安や疑問があれば、会員はいつでも加盟店で相談サービスを受けることができます（一部有料）。

サービスの基本

CHECK 1

国民健康保険の葬祭料はどのようにしたら受け取ることができるか、安心な遺言の作り方は、相続税の相談にのってくれる税理士さんはどこに、など心配になつていることはありませんか。ご相談いただければ加盟店では適切なアドバイスを提供します。

CHECK 2

専門家のアドバイスが必要なときにはご紹介いたします。有料相談もありますが、事前に有料かどうか提示しますので、安心してご相談ください。



3 葬儀の内容を指定し、見積もりを得ておく生前予約制度が利用できる

会員ご本人の意思に沿った葬儀を実現できるように、予め葬儀の方法、道具など細部にわたって指定し、それについて事前に取り決めておくことができます。

サービスの基本

CHECK 1

ご本人が自由に考えた葬儀のデザインをすることができます。この仕様書を家族に示すことにより、具体的に自分の意思を家族に伝えておくことができます。

CHECK 2

ご本人だけでなく、家族の葬儀についても予め決めておくことができます。いざというときに精神的に動揺して冷静な判断力を欠くことになつても、慌てることも、準備不足もなく、しっかりとした葬儀を執り行うことができます。

CHECK 3

予め考えた葬儀の仕様書に基づき、事前のお見積もりを無料でいたします。金額の目安がついていれば、いざというときにいくら資金を準備したらよいか迷う必要がありません。また、見積金額を見て仕様の変更を行うことができますので、内容・費用とも満足できる仕様書を作っておくことができます。

CHECK 4

仕様書作りには加盟店がお手伝いします。葬儀やそれにまつわることに知識不足があつても、安心して納得いただける仕様書作りができます。また、これを通じて葬儀の手順等が把握できますので、もしものときに安心して取り組むことができます。

4 保険プランを利用して葬儀費用を事前に準備できる

オプションで別に契約することにより、一生涯保障の葬儀費用を準備することができます。

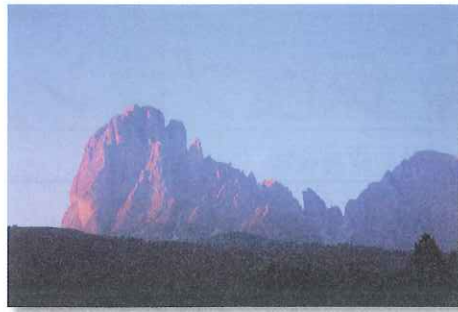
サービスの基本

CHECK 1

遺された家族が葬儀費用のことで心配する必要がなくなります。

CHECK 2

一生涯保障ですので、いつ亡くなるがあつても保障がなかったということはありません。





経済産業大臣認可

全 葬 連

if共済会会報

NO.7